

平成30年度行政事業レビューシート (警察庁)

事業名	指紋ライブスキャナー			担当部局庁	刑事局	作成責任者		
事業開始年度	平成9年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	犯罪鑑識官	犯罪鑑識官 友井 昌宏		
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な条項も記載)	警察法第37条第1項第4号 警察法施行令第2条第4号			関係する計画、通知等	-			
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	「万人不同」及び「終生不変」の特性を有し、個人を識別するための資料として、極めて有用な指掌紋を活用した科学捜査を推進する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ライブスキャナは、被疑者等の指掌紋を電磁的に採取・記録し、これに係る身上事項を入力してオンライン送受信を行う装置であり、各都道府県警察(方面)本部、全警察署等に整備している。 本装置を用いることにより、効率的に指掌紋の短時間での採取やオンライン処理が可能となっており、身元・犯罪経歴・余罪の確認や、犯罪現場に残された指掌紋からの被疑者の割り出しを迅速に行っている。							
実施方法	直接実施							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	202	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
		計	202	290	110	0	0	
	執行額	202	268	108	-	-		
	執行率(%)	100%	92%	98%	-	-		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	#DIV/0!	92%	98%	-	-		
	平成30-31年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由			
物品購入		0	0	整備計画の終了に伴う皆減				
計		-	0					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-
	目標値	-	-	-	-	-		
	達成度	%	-	-	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	-							

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と27~29年度の達成状況・実績							
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	犯行を立証する有力な客観性の高い科学的証拠の収集・確保を目的とした事業であるため、定量的な目標の設定は困難。		(成果目標) 指掌紋の活用による科学捜査の推進 (達成状況) 各都道府県において、適正な指掌紋資料の採取及び鑑定の実施等により、科学捜査の推進に寄与している。						
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	指掌紋データベースの活用 の推進	指掌紋データベース照会件 数(暦年)	実績	件	81,531	75,373	73,035			
			目標値	-	-	-	-	-		
達成度	%	-	-	-	-	-	-	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	指掌紋記録受理数(暦年)	活動実績	件	350,755	331,257	320,024	-	-		
		当初見込み	件	-	-	-	-	-		
単位当たりコスト	算出根拠			単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	各年度のライブスキャナの購入の執行額/各年度のライブスキャナ整備式数	単位当たりコスト	千円	1,076	1,010	999	-			
		計算式	執行額/式数		202,228/188	267,683/265	107,892/108	-		
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	2 犯罪捜査の的確な推進								
	施策	1 重要犯罪・重要窃盗犯の検挙向上								
	測定指標	定量的指標			単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標年度 30 年度
		各重要犯罪(注1)の検挙率(注2) (注1) 殺人、強盗、放火、強姦、略取誘拐・人身売買及び強制わいせつ (注2) 右記の数値は、未遂罪及び予備罪を含む。	実績値	%	73.2	76.7	82			
			目標値	%	65.1	67	69.6		73.2	
		定量的指標			単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標年度 30 年度
		重要窃盗犯(注1)の検挙率(注2) (注1) 侵入窃盗、自動車盗、ひったくり及びすり (注2) 右記の数値は、未遂罪及び予備罪を含む。	実績値	%	53.6	55.1	56			
			目標値	%	49.1	50.2	51.4		52.9	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	指掌紋は「万人不同」及び「終生不変」の特性を有し、個人を識別するための資料として極めて有用であり、指掌紋の効率的な採取や、オンライン処理による迅速な身元・犯罪経歴・余罪の確認を実施することで、的確な犯罪捜査を一層促進することが出来る。									
改革項目	分野:	-	-							
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
達成度	%	-	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
達成度	%	-	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国 必 費 投 入 の 性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	客観性の高い科学的根拠の収集・確保は広く国民から期待されている。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	法令に基づき国庫支弁としている。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	犯罪の確実な立証を図る上で不可欠なものである。
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札を行い、競争性の確保、コストの削減等に配慮している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	鑑識・鑑定業務を行う上で必要な金額を支出している。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	一般競争入札を行い、競争性の確保、コストの削減等に配慮している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	鑑識・鑑定業務に必要なものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	一般競争入札を行い、競争性の確保、コストの削減等に配慮している。	
事 業 の 有 効 性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	犯罪の確実な立証を図る上で最適な手段・方法により実施している。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	犯罪の立証に活用している。
関 連 事 業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
点 検 ・ 改 善 結 果	点検結果	適切な契約方法により競争性を確保し、事業を効率的に実施している。	
	改善の方向性	本経費の執行に際しては、一般競争入札を実施するとともに、今後も過去の調達実績の反映や、より競争性を高める仕様への見直しを図っており、引き続き予算の適正な執行に努める。	
外部有識者の所見			
点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現 状 通 り	引き続き、適切かつ効率的な事業実施に努めること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
現 状 通 り	平成31年度は概算要求を行わないが、次回概算要求時までにより競争性等に配慮した仕様を検討するなど改善に努める。		
備考			

